

「科学技術に関する基本政策について」(WG報告案)に関する意見

京都大学総長 松本 紘

【全体を通じて】

○カタカナ表記が依然として多いので、政府の公的文書とする以上は、可能な限りカタカナ表記を削減すべきである。(例:P25(2)の中の「ブレインサーキュレーション」、など)

【Ⅱ章関連】

○グリーンイノベーションの中には、グリーンとして大切な「森林」の記述が全くないので、一部でも明確に盛り込むべきである。(例:P8 iii)の中の下から2行目に「森林をはじめとする自然環境や生物多様性の保全・・・」文言を追加すべきである。

【Ⅲ章関連】

○前々回に指摘し、改められた特定領域研究の例示が復活しているが、これらは削除されるべきである。(例:P19(4) i)の中の「高速増殖炉サイクルや核融合等」)

【Ⅳ章関連】

○リーグを組んだ研究者のステップアップシステムの構築を推進するため、国による支援は不可欠であり、P29の2つめの・に「国はこれらの取り組みを支援する。」の文言を挿入すべきである。

○我が国において、科学技術の分野において優秀な次代を担う人材を育成していくため、我が国の高大の接続の充実が必要不可欠であり、P30の<推進方策>の最後の・に以下の文言を挿入することを提案したい。

「国は、現在の高等学校の教育内容・方法、大学の入学者選抜の内容・方法、及び大学における教育内容・方法が、次代を担う人材の育成にとって、適切に機能しているかを検証し、必要に応じて、新たなシステム構築を検討すべきである。」